

いじめ問題で親子の絆を！

親子の手紙を通して

1998.7.31

沼澤 清一

(〇〇市立〇〇小学校所属)

書店の教育書コーナーで立ち読みをしていた。

おもしろそうな本があった。書名は挑戦的なものであった。

パラパラとめくっていくうちに、すごい作文を目にした。

昔いじめられっ子だったという短大生が、自分の幼年期からその生育過程を振り返って書いた作文であった。

いじめという事実。悔しさ。恨み。そういうものを表した文は読んだことがあるが、自分の生育歴を客観的に振り返り返って書いたものは見たことがなかった。

驚いた。その本、

「集団を動かさない教師」 三上敏夫著 明治図書

を読んだのは、今から3年前である。

東根小学校に勤務して3年目、教員となって初めて3年生を担当した時のことであった。

いじめによる子どもの自殺が騒がれていた時でもあった。

第三章 集団の中で個を見失わない

四 子どもの未来をも見通す目を

ここに掲載されている小学校時代にいじめられっ子であった短大生が、自分の生き立ちを振り返りながら書いた作文のすさまじさに心を動かされた私は、これを使って授業をしようと思った。

しかし、私が当時担任していたクラスは3年生。子どもたちだけに語りかけても、深まりのない話で終わってしまうように感じられた。この作文を資料に使うには、3年生には内容的に難しい。

そこで、前述の短大生の作文を保護者向けに学級通信に載せて配付することにした。

<『いじめ』について>資料① 3年5組学級通信特別号(11月3日)

現代の保護者は、いじめをどのようにとらえているのであろうか。

その反応を知りたかった。

下学年の子どもたちには、保護者の意識が如実に表れてくる。テレビ・新聞、そして、学校などがいくら騒いでも、家庭での意識とはどのようなものなのか。

いじめられてた子の作文を載せた学級通信に対する反応は、意外にも8名の保護者の方々より感想の手紙を頂くこととなった。児童数33名のうち、約4分の1である。

しかも、その内容は、自分の体験に基づくものすごいものであった。

私の同世代の保護者の方々の生き様を感じた。

『いじめ』についての資料を読んだ**保護者の方々の手紙から**

いじめの問題で、先日テレビで放送された金八先生のドラマを見て、親子共々目頭をあつくしてしまいました。又、沼澤先生からのいじめの問題についての貴重な資料を読んで泣けてしまい、親の責任が感じられます。

私も、中学・高校時代に、いじめといっても今のように自殺までとはいきませんが、あったことはおぼえています。親の見えない所、先生の見えない所でいじめがおこっています。自分の子にかぎってと思うかもしれませんが、いつ被害者に、いつ加害者に、いつどこでなるのかわからないのがおそろしいです。

娘が2年生の時の今頃もいじめ問題で学級懇談をしたこともありました。その頃の担任のお話では、「ぼく、わたし、〇〇さんからいじめられたんだよ。」と先生におしえるとといった子供達だったので安心したものです。

しかし、学校まで歩く道のりの長い並松地区、四ッ谷地区に3・4年前いじめがあったことは現実で、娘を入学させるのを心配したこともありました。上級生が習字道具、ランドセルをもたせるいじめだったと思います。又、親が朝ねぼうの為、子供が通学班と一緒にいかないで、車、タクシーで行くので、ずるやすみ、〇〇〇さんのお母さんはデブなど親の考えつかない言葉によるいじめなども去年ありました。

(小さいことを大きくしてしまう子供達のおしゃべりなのかもしれません)

感想文とはいえない文面になってしまいましたが、現実にあったことと、私の気持ちを書きました。 11.11(土) I.Nさんのお母さん

「いじめ」について

「いじめ」について考えると言いましても難しい問題です。なぜなら、学校だけでなく社会人でも現場で起こりうるからです。それでは、なぜ「いじめ」などがあるのかという事なのですが、いじめる側にも、いじめられる側にも色々な原因があるのではないのでしょうか。

まず、いじめる側から見て、まず家庭の問題。母親があまりかまってくれない。それと反対に何かにつけてギャーギャー言い過ぎるなど、母親への不満。学校では先生にいつも注意される。いじめられる側から見て、家庭では問題はないと思うのですが、性格的に気が弱く、学校では先生にえこひいきされているとか……その他色々あると思いますが、私も実際小学生の1・2年の時に経験しました。「いじめ」と言うより、「いじめ」に近い事ですね。原因は単純な事なのです。単にクラスの中で(と言っても11人しかいないのですが……)少しだけ字が上手な事と成績が少しだけ良い事で先生にひいきされているという事なのです。(今はとても下手なのですが……)そのころ私はいじめられない為、少し字をくずして書いたり、わざとテストもまちがえて書いたりした事もありました。当時は、早く大人になりたいと思いましたね。死んでしまいたいと思った事もありました。それで、親に言おうと思ったが…言えず、そのうち3年生になったら、担任の先生がかわり、いじめはなくなりました。

いじめっ子は、ねたみ、うらめしいのが原因で、私も気が弱かったのですね。(反省してます。)

時は、めぐりめぐって娘の時代の話になります。1年生の後半のころから2年生の三学期ごろまでの間だったでしょうか。やはり、いじめに近い事がありました。娘は第三者で、いじめられていた子供さんは、現在転校していません。その子供さんは、大人も負けるくらいにいい言葉遣いなのです。娘を迎えに行った私に、
「〇〇ちゃんのお母さん、こんにちは！ 今日〇〇ちゃん、教室で漢字の勉強をしていますので、少し遅くなると思います。では、さようなら！」

私はびっくりしました。その子がいじめられていると聞いたのは、それからしばらくしてからです。「バイ菌、あっちいけ！」とか、色々な暴言、時に後ろからおされたり泣いていた時もしばしばあったようです。娘が話をした後、私はいじめっ子に「やめなさい！」って言ったら？ そしたら、「私言ったヨ。そしたら、何おまえもいじめられたいのか？」と言われたそうです。私は悩みました。そのうち授業参観がありました。その時、先生は、

「このクラスにいじめはありません。」

との事でした。まあ、先生がそうおっしゃるならと思い、それから一ヶ月後ぐらいいじめの話は娘もしなくなり、そのいじめられていた子供さんは転校しました。原因は「いじめ」ではなかったかもしれないですね。早とちりだったかもしれません。

いじめは悲しいです。つらいです。子供達の家庭でもストレス、学校でのストレスを子供達の気持ちになって考えていきたいと思います。その表れとして子供に変化がある時は、日記を通して連絡をと思っています。ズラズラと書いてしまいましたが、今後ともよろしく願います。 S. Sさんのお母さん

『いじめ』について

私も主人と金八先生を見て感動しました。

でも、はずかしながら、**私もいじめた側に記憶があります**。直接手をだしたり、ののしったりはしませんが、みんなと一緒に逃げまわったり、ムシしたり、この文章をみて、いじめられた人の気持ちをおもうと今にでもあやまりに行きたい気持ちになります。

(子供のころは、何の悪気もなく、みんながやるから私もやっていたのですが……)

今、子供の親となり、自分の子供がかわいく、うちの子だけは「いじめられっ子」になってほしくないと思っています。

「いじめ」は、つい「学校の先生が何をしているのだ」と親達の中では話がでます。しかし、両親にも責任が多くあるのですね。私がいじめられずにすんだ事を、私の両親に感謝したいと思います。

自分の子供が「いじめられっ子」にならずにすむように、又、いじめられっ子を助けてあげられるような子に育てられればと思います。(いじめられっ子を助けて、逆にいじめられるようでは困るのですが……) とてもむずかしいことですね。

竹中さんには、すてきな友達がいたおかげでたち直ることができましたね。(もちろん自分の意志もあると思います。) 私も友達はたくさんつくりなさいと教えています。

余談になりますが、

Tの妹は障害児です。

その事で、いつかTがいじめにあう日がくるのではないかと考えています。その時にTが自分の意志で強く立ち向かっていけるようにと願っていますし、そんなことがあった時には「話をしなさい」と教えています。

又、いじめによる自殺のニュースが続いた時などは、「友達がみんなTをいじめても、お父さんとお母さんはTの見方だから、死ぬことを考えず自分だけ悩まずに話をしなさい。」と教えていました。 乱筆・乱文ですみません。 F. Tくんのお母さん

高校の時、こんな事がありました。私は家政科だったので女の子36人のクラスでした。2年生の時の話です。ちなみにクラスは3年間同じです。2年生になると6人ぐらゐのグループ6組に分かれていました。私たちのグループは、クラスで目立つ方でした。良い方ではなく、悪い方でした。みんな茶髪でスカートが長くって、おもしろくなければ学校は休みです。そんなんで先生はいつも目をつけていました。そんなある日、PTAの総会があり、親が学校へ来ました。子供同士が友だちだと親も仲がよくって、私たちはうれしかったんです。ところが、1人の親がどんな思いだったか、私ともう1人の友だちの母さんに言ったんです。

「2年生の大切な時期です。あの子は、あなたがたの子とつき合うまでは、成績も良かったし、ないしんも良かった。でも、あなたがたの子とつき合うようになってから…… おねがいです。友だちやめて下さい。」

うちのお母さんは、お父さんにだけ話をしました。そして、父は私に、「○○ちゃん、好きか？」と聞いたので、「うん、友だちだもの。」と言ったら、

「高校の時の友だちは、一生の友だちになるから大切にしな。」

と、それだけ言いました。

よく日、学校へ行ったら、げんかんでその子が泣いています。みんな無視して「友だちじゃない」と言われたと。教室へ行ってみると、大きく手まねきをしたので、その子の所にいったら、

「あいつもう友だちじゃない。親が友だちやめてって、うちの母にいったんだよ！ ひどいだろう。ぜったい無視な！」

私は、わけがわからず、くわしく聞きました。「うちのお母さん、何も言わなかった。」と言ったら、びっくりされました。その子は3日間無視です。親が何を私たちの親に言ったのか、知らないままです。私は言いました。

「やめよう！ 本人は何も知らない。」

友だちは首をふるばかりです。私は、両方にはさまれて……つらかったです。でも、6人のグループから1人でもかけるのはいやだったので、がんばりました。私は、父が「高校の友だちは一生の友だちになるから……」と言った意味がその時分かりました。どんな思いでいったか。どうして本当の事を言わなかったか。うちの父はすごかったです。今でもすごい父です。その友だちも分かってくれて、みんな6人もと通りになりましたが、友だちには親が友だちをやめてほしいといった事は言いませんでした。今でも、みんないい友だちです。そして、いい母親になり、いい年になりました。このプリントを読むまで忘れていました。あの頃は自分自身お兄ちゃんと比べら

れてつらかったんです。家にいるのが……。でも、学校は友だちがいっぱいいて楽しくって。友だちの結婚式で先生に会いました。先生が、

「そう、3年生の男の子がいるの。あいかわらず元気で、茶髪で……。全然かわらずで、あの頃大変だったけど、楽しかったわ。日常生活がスリルのれんぞくで……。あの頃は良かった。私も若かったし。」

と涙ポロポロでした。私も年をとったが先生も良い年になったなあと思いました。久しぶりに6人顔を合わせましたが、みんな言った言葉は、「みんないいお婆さん！」でした。これからも良い友だちでいようと約束しました。やっぱり、一生の友だちになりました。

私たちの頃は、いじめっ子がいましたが、「やめなさいよ。」という人もかなりいました。私も金八先生見ました。正義が正義として通らない社会は、私もイヤです。「やめなさいよ。」と言ったら、みんなで「そうだよめよう。」という時代を望みたいです。

O. Tくんのお母さん

いじめ問題について

先生からいただいた資料を読んで、**第一に「私もあった！」**と思ったのです。第二に「うちの子も泣く！」と思ったこと。第三に「それが起こるかもしれないのは、これから」と思い考えさせられました。

第一は、私が小学校1年生の時、担任の先生から、どこかに置き忘れて泣いている子のイスをさがしてきたら、「あなたがかくしたんじゃないの？」と言われ、「ありがとう」とは言われませんでした。やはり、今思ってもイヤな思い出です。だから、1・2年生の時の記憶は全くそのことだけ。3・4年生の先生は、やはり資料の子と同じようにいい先生で「やれば出来る。目を見て話をきく。」と、とてもはげましてくれた先生で、私の結婚式まで来ていただいたほどです。Kはその点幸せな小学校生活をしていると思います。（うらやましい）

第二の「泣く子」なのです。しかし、家の中だけ、学校では絶対泣かないのだそうです。（本人）甘えなのか、休みの日は日に何度もなきます。本人に効いてもわからず、くやしくて泣く、あまえて泣くのどちらかなのかと思います。だんだん言いきかせていますが……。まだなおりません。私の課題です。

第三のこれからかもしれない……。と思うのは、テレビの影響もあるでしょう。家なき子がみたいと言われましたが、寝ている時間でもありましたので、みせませんでした。それより、ニュースを見せていろいろ話をします。オウムのことも小学校レベルでわかるように、たとえ話にしてみます。先日は、消化器がマンションから落ちて子供が亡くなったニュース。死んでしまった子の親の気持ちや、死なせてしまった子の親の気持ち、死んでしまった子の気持ち、いろいろ話をします。テレビの中の「いじめ」は話の中だけで結局はちゃんと頭の中には入らず、「いじめ方」だけ頭の中に入るような気がします。集団生活に入って間もない子供達は、これからが大変だと思う。「出るくいは、打たれる」だから、「右ならえ。良いことはもちろん、悪いことは特に！」の世の中。良いことは良い。悪いことは悪いと言える、感じられる子供に育てるには大変なことだ。子供とたくさん話し、そして、「両親だけは私を信じてくれている」という最低限の信頼だけは持ち続けて、子供に関心を抱いて、子供達の世

界を大切に思うような、つかずはなれずのよくばりな親に、子供と一緒に成長していけたらいいと思う。あくまでも理想はたかく！

私もイヤな思い出があるぶん、子供には平和で幸福でいてほしいと思います。でも、これだけ考えて下さる先生にめぐり会えたのは、子供も親も幸福だったと思います。子供の考え方の柔らかいうちに勉強以外のことをいろいろ問題出して子供の考えを引き出してみるのもおもしろいと思う。自分の子供なのに何を思い、何を考えているのかだんだんわからなくなってきました。家での顔、学校での顔などなど全部がこの子なのだな……と思うこのごろです。

T. Tさんのお母さん

いつも熱心な御指導に感謝申し上げます。資料読ませていただきました。世間をさわがせているいじめや不登校……私は最終的には親の育て方やかわり方に一番の原因があると考えています。私自身は「母親として、こうありたい」という理想はかかげているのですが、現実的には時間的・精神的な余裕のなさから我が子に十分接してやれないもどかしさを感じたり、母親失格だなどと自己嫌悪に落ち入ったりすることしばしばです。でも、最近では、ひらきなおりとでもいうのでしょうか、**今を精一杯生きている母親の姿をさらけ出そうと考えるようになりました。**疲れ切ってる時もある。落ちこんでる時も、いらいらしている時も、もちろん上機嫌の時も……。

子供には、いつも仕事の話をしませぬ。

「お母さん今～で忙しいんだよ。」

「今こういうことをがんばっているんだよ。」

外で働く母親を少しでも理解させようと思っています。Y自身学校のことはよく話します。私から話をきき出すこともあります。とにかく夕食の時は色々な話をするように心がけています。

なかなか勉強もみてやれませんが、時間のあるときにじっくりと……という感じです。

「子育てにやり直しはきかない。」と言われます。教師や親の一言が大きな影響を与える場合がたくさんあると感じます。親として精一杯がんばらなければ……。我が子のためにと感じさせられました。

現在午前2時半 ねむくてまとまりのない文章になってしまいました。申し訳ありません。

M. Yくんのお母さん

「いじめ」についてを読んで、むずかしい事はとても書けませんので、私が1人の親として感じた事を書かせていただきます。竹中久美子さん、彼女にいやな事はいやだ。まちがっている事は、それはまちがいだと言える勇気をもたせられなかった親。学校では先生は子供にとって絶対です。その先生が子どもの理解者になれなかった事、子供達中のせめて1人でも味方になってあげられなかった事などなどいろいろと考えさせられました。今、自分の子供に「いじめっ子」「いじめられっ子」そのどちらにもなってほしくありません。せめて、親の私だけは子供の最大の味方でいたい、そう思います。過保護にならない程度に……。

I. Sくんのお母さん

「いじめについて」読ませて頂きました。

竹中さんがいじめられた事を文章にするというのは、とても勇気がいった事だと思います。本当なら思い出したくもない日々だったでしょうから。

私には、中学2年からの親友M美がいます。本当は小学校4年から同じクラスなのですが、その当時は、それぞれ親しい友人がいたので、本格的につき合うようになったのは、中2からでした。M美は男子からいじめられていました。いつから、どんな理由でなのかはわかりませんが、気がついたら竹中さんのようにバイキン扱いで「近よるな!」「お前からさわられると体がくさる!」とか言われていました。小学校の時は、それでもクラスの中だけでした。が、私達の中学校は、1クラス40名、8クラスで一学年で320人はいたと思います。私の親しかった友人は、隣の中学へ行く事になりました。私は今でこそ3人の子供を産んで性格がずぶとくなりましたが、小学校の頃は「おじぞうさん」と先生から言われるくらいおとなしくて、授業中手をあげるなんてもちろん、友達と話をするのもなかなか出来なかったのも、唯一親しかった友人と離れてしまい、心細く思っていました。それでも中1の時は、同じようなおとなしい人と2~3人かたまっていました。その時、私は7組で、M美は8組で隣のクラスでした。体育や家庭科などはいっしょの授業を受けていたので、顔は時々合わせてあいさつ程度はしていました。M美へのいじめは、その時は、もう学年中に広まっていました。中2になりクラス替えで私はM美と同じクラスになりました。中1の時の友人と別のクラスになりました。新しい友人を作ろうと思うものの、私の性格から、なかなか友達は作れなかったし、周りも〇〇さん(私の旧姓)は、すごーくおとなしい人という目で見えたので、以前同じクラスのM美とくっつくしかありませんでした。最初、特に中学校の時は、私はM美がきらいでした。私がいじめられているM美を見ると、私までいじめられるような気がしたのです。だから、表面上は何とか合わせながらも、心の中ではM美をきらっていました。結局私はいじめの標的にはなりませんが、何かグループを作るといった時などは、きらわれ者のM美とおとなしい私があぶれるみじめな思いもしました。もう一度人生をやりなおせるといふのなら、私は中学に戻ってやりなおしたいです。

クラス40人。私とM美をのぞいても38人いるのに、私は毎日M美しか話し相手がいまませんでした。「今日は、M美としか話してないな」という日も何日かありました。私は、自分とM美が、このクラスで2人だけ離れているような、浮いているような気がしてなりません。私が中3になったばかりの頃、いところが白血病で亡くなりお葬式に行きました。いここは、私より1才上で、中学を卒業して1~2ヶ月で亡くなりました。中学の時のクラス全員がきて、皆泣いていました。それを見て、私が死んだら私の葬式にはクラスで何人の人が来てくれるだろう。何人泣いてくれるだろうとやはり思いました。毎日学校がイヤでした。でも、実際いじめに合っていたM美は、もっともつらかったと思います。机がとなりになるのをイヤがられたり、フォークダンスでも手をつないでもらえなかったり、いつもいつも陰口たたかれ、さけられていたのですから。女子からでさえ、軽く見られていたというか、そんな感じでした。でも、彼女はすごいんです。いじめられても泣いたりしません。相手の男を無視です。いじめで一日だって学校を休んだ事はありません。**学年中の男子から皆そういう扱い受けていたのに、えらい。強いって思います。**その後、クラスでその事を話

し合い、露骨ないじめはなくなりましたが、卒業までM美は皆からさけられていたのです。今思い出しても、私はM美の良い友人ではありませんでした。本当の友なら、私が勇気を出してやってあげられる事はあったはずなのに……。それから、高校も同じ女子校へ進学し、クラスも商業科で3年間いっしょでした。その頃は、私も彼女の良い所もわかり、悩み事を話したり、いっしょにあっちこち行ったり、いろいろな事をいっしょに体験し、今では一番の友達だと思います。彼女は、今2人の子供のお母さんですが、下の子は水頭症ということで、ずい液がうまく流れず、その為シャント手術というのだそうですが、頭からずーっとお腹に管を通しています。成長に伴い管をつけたしていかなければならないのだそうで、その子は12月で3才になりますが、まだ歩けません。言葉もあまり出ない様です。でも、リハビリをやって、今はハイハイしたり、手をつなぐと歩くところまできているそうです。私なら、そういう子を持つと、きっと落ち込んで暗くなり、会う人ごとに愚痴をこぼしたりしたでしょう。でも、やっぱり彼女は強いんです。一度だって私に愚痴や不安や文句など話した事がないんです。発達の遅い子を長い目で見てるのです。

「言葉もあまり出ないけど、そんなに心配してないの。」

と以前言っていた彼女って、本当にすごい。強いって思います。

彼女のそういう所を見込んで、神様が「彼女なら大丈夫」とそういう赤ちゃんを彼女の所へ授けたのかもしれないなと思ってしまいます。

話が長くなりましたが、私は中学の時、M美の本当の友人ではありませんでした。だから、子供にもえらそうな事言えないのですが、最低限言わなければならない事は、言わなければと思ってます。

生命の大切さ

人に対する思いやり 我が身をつねって人の痛さを知れという言葉があります。何かしゃべる時でも、こんな言い方をしたら相手はどんな思いをするか。

障害を持った方へのいたわり

善悪の判断を間違えるな。1人だと悪いとわかっているけど、集団だとやってしまったり……。その他、必要だと思う時は、そのつどそのつど子供に話して行こうと思います。いじめというのは、いじめられてる子だけじゃなく、いじている人にも心に問題があると言いますから、本当に大変な問題だと思えますが、新庄の中学校であったマット事件や、大河原清輝君の事件などは、これ以上起きてほしくありません。本当に真剣に考えなければいけない事だと思えます。どうぞ、Tの事、学校で何か悪い事しましたら、遠慮なく叱ってやって下さい。これからも、ご指導よろしくお願い致します。 乱筆乱文すいません。 O. Tくんのお母さん

短大生の作文を載せた学級通信はB4版8枚になる長いものであった。忙しい仕事の中で目を通し、わざわざお手紙をくれた保護者の方々。身に迫るお手紙の内容を読み、家庭でのいじめに対する深刻な受け止め方を感じずにはいられなかった。

これなら、時間をかけて授業で扱えると思った。

「いじめはよくない。」「してはいけないことだ。」

そういうスローガンのような授業でなく、子どもたちの心に深く刺さる授業ができる。いじめの授業を通して親子のつながりも高めることができる。

そう思えてきた。

いじめ問題を授業で扱うと、必ず暗い雰囲気が終わってしまう。

この三年生を担当する前年、六年生を担当した時もそうであった。当時「人間失格」という集団によるいじめを扱ったテレビ番組が放送されていた時、子どもたちに良く聞かれた。

「先生、昨日のテレビ見た？」

教師の反応をつかみたかったのであろう。

道徳の時間、新聞に掲載されていたいじめの記事を読みながら話をしているうちに、『先生が、あの主人公の親だったら……いじめた子、一人ずつ……殺していくよ。親の気持ちって、そういうものだよ。』

およそ教師にあらざる言葉が出てしまった。いつもは明るいクラスから物音一つしなくなった。しかし、それにうなずく子がいた。

自分を誰よりも大切に思ってくれている親の存在を強調したかった。それは、子どもたちにとって、大きな心の支えになるはずだからである。

いじめの授業を通して、親子の会話を導きたい。

親子のつながりを強め、お互いを認め合い、ともに成長する場を作りたい。

そう思わずにはいられなかった。

親が子どもを心配している。子どもが親に感謝している。

友達を大切に作る心を育てるには、まず自分を大切に思っている人の存在を感じとらせて、そこから始まるのではないだろうか。

自分を大切に思っている親がいる。

友達にも、同じように大切に思っている親がいる。

その存在を意識させること、そこから始まると思った。

「いじめは、良くないこと。」

「いじめられる子の気持ちになってみよう。」

「いじめはやめよう。」

授業で何遍繰り返しても、子どもたちにはそんなことは分かっている。

理屈で語るよりも、心の絆で受け止めさせたい。

暗くない、心温まるいじめの授業にしたいと願った。



「いじめ」の授業

①導入 授業 <12/5>

—<事実を知る>—

いじめの記事を載せた学級通信を配る。

(学級通信ポンポコNo.114)

伊藤準君の自殺の記事、そして遺書を載せた学級通信を配った。
新聞・テレビ等で騒がれていたため、多くの子どもたちはその内容を知っていた。
今の現実の問題から真剣に考えてほしかった。

—<意見を交わす>—

いじめについて話し合う。

生々しい遺書、いじめの内容を読み進めるうちに、下を向いてしまう子、涙を流し始める子が出てきた。

このような場合、いつものような活発な話し合いにはなりにくい。

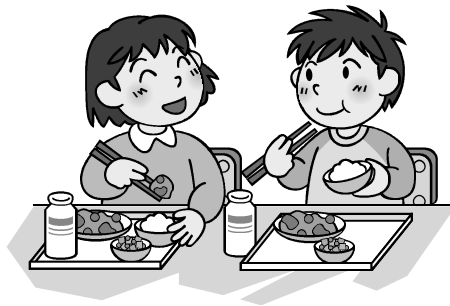
「いじめは、悪いことだ。」

「いじめられる子がかわいそうだ。」

「ぼくたちは、そういうことをしない。」

いじめの授業は、大抵こういう結末で終わる。

今回も、とりあえず授業ではここまでとした。



『いじめ』について

5日(火)4校時、いじめの新聞記事を載せたポンポコNo.114を読みました。いじめの原因、様子を話して、伊藤準君の遺書を読みました。そのあと、いじめについてみんなで話し合う予定だったのですが、だめでした。読んでいた私が、途中から泣けてしまって……言葉にならなくなってしまいました。

その前から、教室のところどころで、下をむいて目をうるませている子がいました。

いつもは、あかるい5組ですが、シーンとなって、鼻水をすする音だけが聞こえてきました。

こういう悲しい話は、いやです。

もう、どんなに頑張ってもとりかえしがつきません。

私たちにできることは、準君のかなしさを、みんなでわかってあげて、同じことをくりかえさないようにすることです。

私は、親になって初めて、親の子に対する心というものがわかりました。

子供が生まれてくる時、ただ、元気な姿を見られればいいと願いました。

そして、今も……ただただ、元気にくらし続けてくれればいいと思っています。

時には、高望みをして、小さな夢をみたりもします。

しかし、その存在、元気な姿がすべてです。

親が子を思う気持ちとは、そんなものだと思っています。

去年、いじめのテレビ番組が放送されました。「人間失格」という番組でした。その主人公もいじめられて、死んでいきました。その時、私は、6年生を担任していました。

「先生、昨日のテレビ見た？」毎週のように聞かれました。

『先生が、あの主人公の親だったら……いじめた子、1人ずつ、殺していくよ。』

親の気持ちってというのは、そういうものだよ。』

およそ教師としての言葉ではありませんが、クラスの前でそう言いました。しかし、みんな、シーンとしながら聞いていました。

「学校でいじめられて、どうしてもいやだったら、無理して学校にこなくてもいいよ。自分のつらい気持ちをだれかに話して。そうすれば、みんなが守ってくれるよ。」

「死んじゃあだめだ。そういうのをがまんとはいわないよ。」

「君たちを、小さなころから育ててくれて、何よりもかわいがっている家族の人達。絶対助けてくれるよ。」

友達だって、先生だって、助けてくれる。
けど、自分の口から言わなければ、わからないよ。」
授業で話しました。

いじめは、毎回、加害者と被害者の意識のずれに驚かされます。

いじめる子、いじめられる子、そして、傍観者。

圧倒的に多いのは、傍観者です。

「正義が通るクラス・集団」にしていかなければなりません。

しかし、このごろのいじめは、まるでふざけて遊んでいるようにしか見えない、といわれています。

自分の口から訴えられるようにする、そういう指導が大切なようです。

クラスを担当していて、33人。そのすべての笑顔を、毎日見ていただけることの喜びを、感じずにはられません。

先週お願いしました通り、お子さんへのあたたかい手紙、よろしくお願い致します。

授業の感想（日記から）

— 12月5日（火） —

きょう学校で、先生がいじめについてはなしました。そして、きいたはなしは、バスケットリングでくびつりしたとっていました。ぼくは、かなしくて、さいごのほうでなきました。1人の人が5人の人にいじめられて、自分の人生をそのままうばっていかれましたとかいてありました。あと、さいごに、「ショックをうけた。」「むししてわかった。」「今後は勉強をがんばりたい。」ぼくは、さいごのことは、なんにもならないと思いました。いま死んでから勉強をがんばっても、どうしようもないと思います。かなしいなあ。 (T・Yくん)

わたしがもしも、いとう君のように5人からかこまれて、いじめられたら、やめてといえない。5人いるんだから、やめてといったら、ますますやられる。その5人は、いとう君のきもちをわかってあげられなかったのだろうか。自分もそうされたらのかんがえて、人にしていいのかをかんがえてやればよかったのと思う。それがいいとおもったからしたのかなあ。いとう君はとてかわいそうだなあ。 (I・Nさん)

わたしは、なんでいじめるのかふしぎです。いじめても、なんにもならな

いとおもいます。でも、このこは、すごくかわいそうだとおもいます。しぬまでいじめられつづけて、がまんしてきたというくんは、どのくらいくるしいおもいをしたかは、いじめた人は、まだよくわかってないみたいです。どのくらいくるしいか、わたしは、よくわかります。自分でしぬなんて、とても人間にはできないことです。

わたしはおもいました。ははおやに**いって**いれば、しなくてもよかったですとおもいました。

(H・Mさん)

今日、4時間目に、いじめのポンポコを先生がよんだのよーん。伊藤君という中一の人がいじめられて、かわいそうだったなあ。自分がなにもしていないのにいじめられるなんて、いやな感じがして、いやなきもちになると思います。なんで、いじめるのかなあと思いました。**わたしは、少しないてしまいました。**先生もなくていいました。わたしは、せんせいがないたら、わたしもなくていいました。

(A・Mさん)

だれかをいじめたりしたら、ちゅういして、それでもだめだったら、先生や友だち、お家の人に話したいと思っています。**なんで、いじめられている人は、**

「やめてよ。」「いやだよ。」

などいわないのだろう。どうして人をいじめてるのだろう。いじめがあっても、みてるだけが多いようです。私は、いじめられているのを見てたらちゅういや、だれでもいいから言ったほうがいいと思いました。

(G・Tさん)

ぼくは、しにたくないと思いました。それは、おやふこうになるからです。おかあさんに、おやふこうってなにといってみたら、

「おやよりはやくしんだ人だよ。」

といっていました。ぼくは、はやくしぬとおやふこうなのかなあと思いました。中一のしんだ人は、だれかにいえばいいのにとぼくは思った。あとその人はゆうきがないと思った。ぼくは、ゆうきをだして言ったほうがいいと思った。

(T・Kくん)

いじめは、いじめてる人と、いじめられている人がわるいと思います。いじめてる人は、自分でわるいと思ってるなら、すなおにあやまればいからです。いじめられてる人は、いやでもがまんして生きつづけているからです。自分で自分のいのちをすててしまうのは、とてもこわいことだと思います。いじめられてた人は、どんな気持ちだろうなあと思います。こ

ういうことがないようにするには、一人一人がいじめなどをしないことだと思います。

(Y・Aさん)

私は、いじめた5人の人たちもわるいけど、ひさし君も、どちらもわるいと思います。

5人の人のわるい所

ようち園児のように(ひさし君の)お父さんにゲームを取りあげないようにちゅういされただけに、次の日からいじめるなんて、そんなの人の気も知らずにしているなんて、ひどいことだと思います。

ひさし君のわるい所

5人もわるいけど、ひさし君も、死ぬ気があったらはっきり「やめろ」とか「いやだ」とかいった方が、もっといきていけたのに、自分からいえなくて、死んでしまうなんて、**すごくみんながかなしんでいて、ご兄弟さんもさびしがっていると思います。**

「今度は、勉強をがんばりたい。」

そんなことは、いじめにぜんぜんかんけいのないことです。これは、しんぶんを書いてあった5人のうちの1人の言ったことだそうです。勉強のどこがいじめとかんけいがあるのかと私は思いました。

(O・Tさん)

3年5組学級通信ポンポコ No.119 12月21日(木)ただいま

『いじめ』について②

いじめについて、今みんなで話し合っておくのはとてもいいことだと思います。必要なことです。

みんなでなかよく、楽しくくらすたらいいね!

授業の感想② (日記から)

きょう、いじめについての勉強しました。わたしは、いじめはゆるせないことだと、あの時しりました。でも、わたしは、いじている人もわるいですが、「やめて」とはっきり言わない人の方がわるいと思います。日本の人びとが、1人でもなくなるといやです。わたしが、もしいじめられてたら、ぜったいその場で「やめて」というか、あとで、または今すぐ先

生に言う。

だが、じっさいした男の子は、なんどもおや、または先生にいおうと思っただけです。でも言ってもそのいじめた人たちがおこられたら、おかえしでもっといじめられると思って、とてもこわかったのでしょう。その気持ち、よ〜くわかるような気がします。

あいつらは〇〇君やいろいろな人をいじめていました。〇〇など、まだその、いやそれがどれほど悪い事なのか分かっていないようなので、ぼくがぎせいになります。

とかいてありましたが、ないた赤おにの青おにくんのようです。でも、青おにくんは、死ぬほどのぎせいじゃありません。

このじさつした男の子は、まだ中学です。あと何十年も生きられます。男の子は、きっと悲しんでるでしょう。でも、そのお父さん、お母さんはもっと悲しんでいるでしょう。一度死んだら、もうもとにもどれません。男の子は、5人組をうらんでるでしょう。だって、男の子の一生をぶちこわしたんです。それなのに、ふざけてやったなんて。もし自分がそうになったらどうなるのかを考えられないのかな。わたしはないてしまいました。

(S・Yさん)

きょう、いじめについてのことをべんきょうしました。

なぜ準くんは、お母さんやお父さんにいえなかったのか？わたしだったら、なぜ、どうしてなどときいてみるけど、どうして準くんは先生（母・父）にいわなかったかわかったけど、なぜひさしくんは、自分から身をすてたのだろうか。お母さん、お父さんに言えばすんでいたかもしれない。

わたしは、メガネをかけていたとき（1年生）に、

「や〜い、メガネザル〜」

などといわれて、それだけでもくやしかった。もう、にどと学校にいきたくなくなったこともありました。わたしは、ひさしくんの気持ちは、すごくよくわかります。くやしくて、くやしくて、今なみだがこぼれてきてしまいます。なぜ、あの5人は、

「こんどはべんきょうをがんばりたい。」

なんてかんがえたりしているのか。そんなことは、かんけいない。へんなことばかりで、ちゃんとひさしくんの気もちをわかっていないと、わたしはおもいます。

自分は、ひさしくんみたいなことはかんがえていない。（5人のこと）ひさしくんは、もうもどってはこない。その5人がひさしくんをころしたということとおなじこと。ひとの家ていをはちゃめちゃにしてしまった5人は、わるいと思います。おとうさん、おかあさん、そして、いもうとにてがみをのこしてたちさっていくなんて、かなしいな。

自分のすごくなかのいい友だちまでむしっていたのなら、とてもしょくで、くやしくて、がっこうにいきたくなくなるのはとうぜんです。

ひさしくんも、しなずに家にいるだけでいいのじゃないでしょうか。

(S・Yさん)

勉強は大切だよ。けど、
勉強って、いろんなことをおぼえる、できるようになる、
それだけではないね。
生きていくのに必要な、
みんなといっしょにいらして生きていくのに必要な、
心の勉強もあるんだね。

むずかしい計算問題なんかわからなくたって、友だちの心のいたみをわかってあげられる、大きな心があればいい！それが、生きていく中で、一番大切なことなんだよ。そうなるために、毎日学校でいろんな勉強をしているんだよ。

きょう、いじめについて話しました。自さつして、いじめられないように死んだのかな。わたしは、いじめる人、見てる人もわるいけど、死ぬほうももっとひどい。もっと長生きしたい人も、はんしん大しんさい死んだ人は、かわいそう。まだ生きたいのにびょうきなどで死んだ人はかわいそう。元気なのに自分でくびつりして「らくにいよう」なんて思っているのと同じことです。しんぶんでやった人の話は、

「ショックを受けた。」

あたりまえ、死んでから、もうおそいと思います。

「むししてわるかった。」

いまごろあやまっても、いじめられた方は、5千円もとられた。水をかけられた。などかいてあった。なのにつぎは、

「今後は、勉強をがんばりたい。」

これはぜ～んぜんかんけいないと思います。べん強、これも大切だと思うけど、自分の体をまもることだと思います。

シャケは、たまごから生まれて、何まんキロmもおよぎ、何万このたまごをうんで生まれる前に死ぬなんて、人間はしあわせだな～と思います。この世で1番こわいのは「死ぬこと」です。

いじめのきっかけは、前はなかよしだったのに妹のスーパーファミコンをとりかえしやってたから、お父さんにおこられて、いじめたのだそうです。自分がわるいのに、どうしてなんででしょうか。さいしょにでっかく、『僕の人生そのものをうばっていきました。』

とかいてありました。ようふくやじてんしゃまで、〇〇君や〇ちゃんにあげてくださいとかいてありました。これから～というのに自分で自さつなんて、かなしいのは自ぶんだけじゃなくて、かぞくの人や、友だちみんながかなしむのです。自分は、ぜったいしたくないな。がっこうにお友だちがいて、毎日たのしいです。これが1番のしあわせです。

(T・Kさん)

ぼくは、なんでよわい人ばかりいじめるのかなあと思いました。だってちょっと勉強ができるからって、みんなでむししたりすることはないと思います。勉強ができるんだったら教えてもらえばいいとぼくは思います。

それに、いじめられた人が死んでから、くやしんだり、「わるかった」などいっても、もうおそいんです。自分がいくらふざけていても、相手には「いじめ」られているとしか思いません。だから、自分からいじめているみたいだと思ったら、すぐにやめてあやまれば、その人はじさつなどはしないとします。

いまごろ、自さつをした人は、まだじょうぶつできなくて、この世にいるとぼくは思います。

いじめられているのなら、学校にはこないほうがいいのです。だって、毎日毎日がまんしてくるよりは、学校にこないほうが、自さつしなくてすむので、よっぽどいいと思います。

でも、ふざけているにしては、ひどすぎます。服などをぬがしたりするのは、いくらなんだってふざけているとおもえませんか。これは、本当のいじめとしかいえません。こういう話をきいてて、ぼくはなきそうになりました。だって、なぜバスケットリングにひもをかけて死なないといけなかったか。

この次の話をするときには、なぜ友だちを死ぬときまでおいつめたか。それに、まわりの人にはなにをしていたのでしょうか。

「むしをしる」といわれても、いじめられている所を見たら、ちゅういしなくちゃいけないと思います。

なぜ、まわり的人是ちゅういしなかったのでしょうか。きっとまわり的人是こわいと思ったと思います。 (O・T君)

どうして、いじめる人がいるのかな。

いじている人は、本当にわるいことだとわかってないんじゃないのかな。もしそうだとしたら、だれかが、ひとこと教えてあげればいいのかもわからない。いっしょになってまざる人がいなければ、しないのかもしれない。

どうして、いじめる人がいるのかな。

ひょっとして、今、自分のしていることで、こまっている人が、どこかにいるのかもしれない。

自分のひとことで、こまっているだれかをたすけてあげられるのかもしれない。

どうしていじめる人がいるのかな。 (沼澤清一)

お家の方からお子さんへ、あたたかいお手紙、よろしくお願ひ致します。

②お家の人へのお願い <12/5>

この日、保護者宛に。

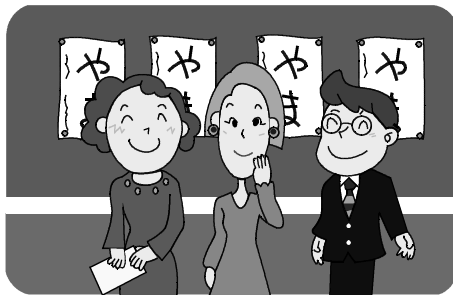
いじめについて『お子さんへの手紙』

というプリントを配付した。

これは、各家庭に、子どもたちへ手紙を書いてくれるようにというお願いである。

学級通信ポンポコNo.118・119に、この日の授業の様子と、保護者への担任としての私の言葉、子どもたちの日記を載せた。

子どもたちは、真剣に「いじめ」に対して怒りをぶつけていた。
いじめられたの子への不満もあった。



----- 保護者からの手紙が集まる！ -----

子ども宛の封筒に入れられた手紙が届いた。

中を見たように大事に私に手渡す子たち。

それは、子どもたちにとってかけがえのない宝である。

手紙を書くまで、各家庭で、父母、または、親子で授業で使った学級通信をもとにいじめについて話し合った家庭が多かったようだ。

「手紙を書く」という条件があればこそその家庭での話し合いであったのかもしれないが、そこにも大きな意義があったように感じる。

言葉に出さないでも分かるはず。

伝わっているはず。

一人の親として、私にもそういう思いがある。

しかし、伝えることによって、親子の絆はもっと強まる。

10歳前後の三年生の子どもたちにとって、それがどれ程大きいかは容易に想像できる。

いじめについて『お子さんへの手紙』

本日の学級通信ポンポコNo. 1 1 4をお読み頂き、どのように感じられたでしょうか。痛ましい出来事です。二度とあってはいけないことです。学校では、今日の道徳の時間に、子供達と一緒に読んで、いじめについて考えました。私は、教室で、学校で、いじめがおきないように全力を尽くします。仲の良い友達関係を築けるようがんばります。

しかし、最後は、やっぱり、家族なのだと思います。子供達が、最後に頼るのは、やっぱり家族、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんなのです。前回、いじめについての分厚い資料をお渡ししました。学生が自分の過去を振り返っての文でした。生々しいいじめの様子が書かれていました。残念ですが、いじめは、どこにでも起こり得るものだと思います。

そこで、保護者のみなさんへお願いです。お子さんへ、お手紙をお書き下さい。みなさんのお子さんが、今回の痛ましい犠牲者だとしたらと、そこまで考え、お子さんへ語りかけるお手紙をお書き下さい。

『いつでも、どんなことがあっても助けてあげる、守ってあげる。』
『今、こまっていることはないか？』
『小さい時あんなこともあったなあ。時々叱るけど、みんな～がかわいいからだよ』

そんなありのままの言葉でけっこうです。親として、お子さんへ心からの言葉をかける機会と思い、貴重な時間をお割き下さい。こんなことをしなくても、家の子はわかっているはずだと思われるかもしれません。ですが、あえてお願い致します。

自分を大事に思ってくれる家族がいる。
あの子にも、同じようにそう思っている家族がいる。
それが、いじめる心をなくします。友達を大切に作る心を育てます。

21日（木）、再度いじめについての授業をします。
その場で、お家の人からの手紙を子供達に渡したいと思います。
封筒、便せんなどは、お家にあるもので結構です。

封筒の表にお子さんの名前を書いて、手紙を入れて、糊付けして、お子さんを通して、20日まで沼澤までお届け下さい。

子供達にとっては、ずっと長く手元にのこる大切な心の財産になるはずです。
（普段、口うるさく叱っているお母さんの本心を知って、子供達は……）
痛ましい出来事が繰り返さないことを願って。

③授業の感想 学級通信を読む。 <12/21>

12月5日の授業後の子どもたちの感想（日記）を載せた学級通信No.118・119（B4四枚分になった）を私が読んで聞かせた。

たくさんの量であったが、子どもたちは神妙に聞いていた。

家庭で父母と話し合っている子が多く、うなずく子、友達に語りかける子も見られた。

「お母さんもそう言っていたよ。」

「私も〇〇さんと同じだと思います。」

「お父さんは、もっと強くななくちゃだめだと言っていたよ。」

感想を読みながら、それに同意する子の意見を取り上げていった。

——<12/5日の日記>——

わたしが、もしもいとう君のように五人からかこまれていじめられたら、やめてといえない。五人いるんだからやめてといったら、ますますやられる……………

5日の授業の時、この子は、こういう自分の考えは発表できなかった。

いじめをなくすには、こういう立場の子を支え合う友達集団こそが大切である。

授業の後、子どもたちは、家族といじめについて話をしてきている。だからこそこういう感想を出して話し合うことができるのである。

「そういう時は、助け合わなくちゃ。」

一番あぶなそうないたずらっ子が意見を言う。

「おまえは、そういう時（だれかがいじめられていそうな時）にこそ、がんばらなくてはいけないんだぞ」

彼は、家族からの熱い応援を受けている。

かくして、一時間目の授業は終わった。

④父母からの手紙を読み、返事を書く。 <12/21>

二時間目、『お家の人の手紙を読んで、返事を書こう』と言って、みんなに封筒と便箋を渡した。

その後、父母からの手紙を渡した。

ハサミで切ったり、のりをはがしたり、みんなとても大事そうに開けていた。

手紙を取り出して、みんな「せ～の」で一斉に読んだ。

最初は、ざわざわしていた。

「ぼくのは3枚はいつているよ。」

「うわ～たくさん書いてある～」

……………

しかし、少しすると、静けさが教室をうめつくす。どの子も手紙に見入っている。

熱心に読んでいる子。

手紙を手に、うっすらと目頭が熱くなっている子。

渡しておいた便箋に返事を書き始める子。

何度も読み返している子……………。

教師の入り込める世界ではない。

しかし、感動は肌で伝わる。

後は、教師の指示は、沈黙だけでいい。

子どもたちは父母へ手紙を書き始めた。

「先生、生まれて初めてお母さんに手紙を書いたよ。」

そういう子がたくさんいた。

子どもたちは、日記帳に授業の感想を書いてきた。延々と何ページにも渡って書いてきた子もいた。

悔しいが、担任との教室での授業では決して味わうことのできない大きい感動であったことだろう。

3年5組学級通信ポンプコ No.137 1月16日(火) 心と心

『いじめの手紙』の感想

12月21日(木) みんなそれぞれ、お家の方からの手紙をよみました。いじめについて、お家の方は、どういう手紙を書いたのかなあ。みんなは、その手紙のお返事を書きました。どういうお返事を書いたのかなあ。

私は、そのどちらの手紙も読んではいません。でも、みんなの手紙を読むときのしずけさ、お返事を書くときの集中力……………すばらしい感動が伝わってきました。

みんなは、お家の人から、大きなパワーをもらったようです。

親子のきづな いいものだなあ! ↙<日記より>

ぼくは、おかあさんのてがみをよんで、ぼくのことをいろいろみまもったり、いろいろしてくれているんだなあと思いました。ぼくは、おかあさんのきもちにあうようにてがみをかきました。てがみをわたしてみても、おかあさんにはにこにこにこにこ〜っとしていました。ぼくは、よかったなあと思ったピョ〜ン!

(T・Kくん)

今日、2時間目におかあさんからかいてもらった手がみをよみました。ぼくは、よんでいるとき、ないてしまいました。てがみをかきながら、おかあさんからかいてもらったてがみをみました。

(O・Mくん)

よんだときは、じぶんの本とうのことがかいてあって、びっくりしました。てがみに、ようちえんのときいわれたことをかきました。手がみをわたしたとき、ドキドキしたけど、わたしたらお母さんがありがたうといってくれたので、よかった。
(S・Mさん)

今日2時間目に手紙をかいた。
母の手紙をあけた。そして、読んだら、**すごくか**どうした。それからぼくが手紙を書きました。さいしょは、あまり考えられなかったけど、あとからいっぱいかんがえられました。そして、書きおわって、母にわたそうとしたら、ドキドキしました。つかれたなあ～
(O・Tくん)

きょう、お父さん、お母さんからもらった手紙。これがじ～んときて、もう少しでなけそうでした。いつも、しかっているお母さんでも、心のそこでは、わたしをすきなんだとわかりました。
(S・Yさん)

今日の2時間目に、お母さんの手紙を読みました。手紙を**読んでみて**、こんなに心配しているんだなあと思いました。手紙を書くとき、がんばって書こうと思いました。わけは、自分の親に手紙を出すからです。手紙をわたしたら、きれいにタンスに入れていました。どう思うかなあ。
(I・Sくん)

今日、2時間目にお母さんからのお手紙をよみました。よんでみて、わたしは、うるうるときました。おうちの人からお手紙をもらったのは、今日はじめてでした。やっぱり、おうちの人からもらったときは、うれしかったです。はじめはうきうきしていたけれど、手紙をよんだときは、うるうるとききました。やっぱり、手紙をもらうことは、とーっとうれしいなあと思いました。わたしは、小さいときのことや、いろんなことをかきました。
(T・Mさん)

てがみをよんでみて、お母さんは、私のことを思っていてくれるようなので、いいなあと思いました。てがみをかいてみて、ようちえんのことから、3年生になるまでをかいて、お母さんがよるこんでくれたので、うれしかったです。てがみをわたしてみて、お母さんがなんとってくれるのかたのしみです。
(G・Tさん)

よんだときに、1年生のころのことがわかった。かいていて、お母さんに書いたのは、はじめてだなと思った。わたしてみても、はずかしかった。よろこんでもらえるかと思った。 (T・Kさん)

おかあさんたちに手がみをかいてわたしたとき、どきどきしました。さいごにどういわれるのかがたのしみでした。おとうさんとおかあさんがいてくれた。おかあさんは、おかあさんたちのいうことわかってくれてうれしい。おとうさんは、かんしんしたな、すごい。ぼくは、**手がみをかいてよかったなあ**と思いました。たいへんだったけど、さいごにはやったーというきもちになるからです。ぼくは、おかあさんたちにおへんじをかいたのははじめてなので、きんちょうしました。 (H・Tくん)

きょう、てがみをよみました。そして、**じーんとき**ました。そして、てがみをよんで、てがみをかこうとして、かんしゃのきもちをかきました。そして、おかあさんわたそうとおもいました。 (S・Yくん)

手紙をお母さんに書くとき、いろいろなことが書けました。2まいもかけました。そして、家に帰って、お母さんにわたしました。少しはずかしかったです。お母さんが書いた手紙をよんで、**やっぱりいじめられていないかしんばいしているんだなあ**と思いました。 (H・Yくん)

お父さんからのてがみでした。みんな、いっせいのとかけてよみました。**かみにかくとき、ないてしまいました。よしかつくんもないていました。わたしもなきました。**いじめというのは、わるいことです。わたすまえは、どきどきしていました。 (O・Aさん)

今日の2時間目にお手紙をかきました。**手紙をよんだら、じ〜んとしました。**なぜかなあと思いました。手紙をかくときなやみました。う〜んこれからかけばいいかな？これからかけばいいかな？でも、心をこめてかいたほうがいと気がつきました。**手紙、うれしかったなあ。** (Y・Aさん)

みんな、すばらしい家族にかこまれて、幸せですね。

いつもは、なかなか気がつかないけれど、こうやって考えてみると、みんなにはすばらしい家族がついているんですね。

ぼくにも、わたしにも、そして、お友だちにも！

お母さんの手紙、とても感動しました。私のきもちをよくわかっていてくれたので、うれしかったです。書いた時の気持ち、「お母さんがこんなに私のことを思ってくれてるから、私も気持ちをこめて書こう。」と思いました。

わたした時の気持ち、ドキドキして、お母さんをまちました。いつの間にかお母さんがきていて、手紙をよんでくれていました。いいお母さんを持って、とっても幸せです。 (O・Tさん)

ぼくは、おかあさんのてがみをよんで、ないてしまいました。どうしてかということ、ぼくのことを、こんなにだいにしてくれてとはしなかったからです。ぼくたちも、おかあさんにてがみを、1じかんとってかきました。4まいぐらいかきました。少しつかれたけれど、こういうのもいいもんだなあとおもいました。 (S・Yくん)

手紙書きをしました。手紙をよんでみて、すごくじーんとききました。少しないてしまいました。手紙をかいてみて、やっぱり、かぞくの人にかくのは、むずかしいなあと思いました。どういふことをかけばいいのかまよってしまいました。手紙をわたしてみて、みんながいる所だったので、はずかしかった。ちゃんとよんでくれるかしんぱいでした。この勉強は、いい勉強だなあー (M・Yくん)

きょう、おかあさんからのお手紙を読んで、それからお返事を書きました。お母さんの手紙には、いろんなことが書いてありました。さっそくわたしは、ふうとう、びんせんをもらい、お返事を書きました。いろんなことを考え、思いだし、あつというまに5まいめへいってしまいました。このやく1年間で、いろいろせいちょうしたんだなあ。小さいころを思い出すと、小さいころにもどりたい気もします。わたしは、お母さんにまともに手紙を書くのは、はじめてです。いろんなことを考えると、どんどんあたまたにうかんでくるし、考える力がどんどんみについてきます。につき、お手紙を書くのは楽しいなあ。

あまりお母さんに心配かけないようにしま～す！ (S・Yさん)

⑤手紙 父母の感想

子どもたちの保護者からの手紙のお返事が届いた後、保護者の方々に『いじめについての親子の手紙』の感想を書いて頂いた。

感動させられた。

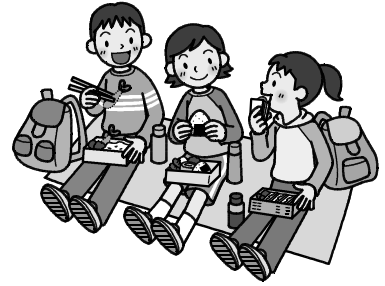
教師として、そして、一人の親として。

手紙をもらって喜ぶ父母。

その姿を見て喜ぶ子どもたち。

親子の強い絆。

教師がそこには入り込めないのが、ちょっぴり寂しくもある！



どの家の方も、最初、手紙を書く時は、
面倒だ。

今更言葉にしなくても分かってくれているはずだ。

という意識が強かったと思う。

子どもたちは父母の手紙を読んで、まず変わった。

「ぼくのことを、こんなにだいにしてくれていたとはしらなかったからです。」

Yくんの言葉に代表される驚きの声である。

その子どもたちが書いたお父さん・お母さんへの手紙。

その手紙に感動しない親はいない。

子どもの手紙に感動し、言葉にならないような父母が多かった。

それは、我が子と親である自分の距離がとても近く感じられたことからであろうし、自分の心配を受け感謝の気持ちを表す子どもの姿からでくるものであろう。

親子の距離がぐっと縮まり、お互いに安心することができたからであろう。

また、

「子供達は、私達親が思っているほど、もう子供ではないんだなあと思いました。」

の言葉に代表される、子どもの成長への驚きと喜びからくる感動であろう。

何よりも、普段の生活の中で親と子の姿と、また違った面からの新しい発見が大きかったことであろう。

自分の手紙を読んだ母が、

「母親になって本当に良かったと思いました。そして、益々今の生活を大切に、子供たちを育てていかなければと思いました。」

この母親の姿を目にした子が、母と感動を共有した子が、容易に母親を悲しませる行動はとるまい。彼の中に大きな絆となって残り続けるはずである。

大きい感動を受け、いじめの授業を終えることができた。

親としての私、教師としての私、

その両方の自分に大きな感動を与えてくれた授業となった。

3年5組 保護者各位

担任 沼澤 清一

『いじめについての親子の手紙』の感想のお願い

年末の21日、道徳の授業で、お父さんや・お母さんなど、お家の方からの手紙を読んで、子供たちは、それぞれ返事の手紙を書きました。

「子供たちは、どんなことを書いていたのだろう。」

「お家の方々は、その手紙を読んで、どんなことを思われたのだろう。」

「3年生として、意味のあることだったのだろうか。」

子供たちが、お父さんやお母さんからの手紙を読んでいる時の沈黙、手紙を書いている時の集中力……それらから察することはできたのですが。

教師として、一人の親として、教えていただければと思います。これから受け持つであろう新しいクラスでも、このような機会を持つべきか、手紙を読まれての感想、成長しているお子さんへの感動、などお教えください。

1月20日頃まで（延びてもかまいません）よろしくお願い致します。

<走り書きでけっこうです。また、他の用紙でもけっこうです。>
お忙しい所、申し訳ありません。

お名前

『いじめについての親子の手紙』の感想

Tは、寝る前にそっと「おかあさん、あとで読んでね」とはずかしそうに手紙を渡してくれました。子供達が寝てから、主人と二人で読んで、とても驚きました。手紙の中には小さい頃自分が大変だった事、くやしかった事、そして私達親に対してのやさしい言葉が書かれてあり、いじらしくてグッときて、うれしさと胸がいっぱいになりました。その夜は、主人と私はTの小さかった頃の事や小学校に入ってから成長した事を夜おそくまで話し込んでしまいました。Tの手紙の字は、いつもよりずーっとていねいなうえ、とても力づよかったので、どんなに一生懸命心をこめて書いてくれたのかがよくわかりました。

いじめについての授業や今回の様な親子の手紙のやりとりは、今後も続けてほしいと思います。小さい頃から「いじめ」は絶対してはいけないこと。いじめられても絶対に死をえらんではいけないということ。そして、自分の死は、どれだけ回りの人を悲しませるかを考えたり、話し合える場が必要だと思います。今回の手紙で、私自身も子供に対して思う心を言葉にして言う事が必要ではないかと考えるようになり、注意したり、しかるにしても、Tのことを思っているから言っていることをつたえようと思っています。また、Tの良い所はいっぱいほめてあげるということを心がけていきたいと思いました。

O. Tさんのお母さん

親からの子への手紙、提出プリントがきた時、主人は大変なてれやなので、きっと私は「おまえが書け」と言われるだろうと思っていました。ところが、何も言わず二日位して、「S！これお父さんからの手紙だ」と自分で手渡したのです。そして、私に向かって「早くおまえも書け」と言いました。主人の意外な態度にちょっと戸惑い、私もすぐペンをとりました。

そして、今日息子からもらった手紙に、

「ぼくは幸せです。あたたかい生活が、毎日幸せです。ぼくが幸せなのは、お母さんたちがいるからだと思います。」

という文がありました。ここを読んだ時、涙がとまりませんでした。母親になって本当に良かったと思いました。そして、益々今の生活を大切に、子供たちを育てていかなければと思いました。今回の授業は父親も母親も勉強させられ、とても良いことだったと思います。ありがとうございました。

I. Sくんのお母さん

今、社会の問題になっている「いじめ」に対し、真剣に真っ向から子供と一緒に考えて、迅速に対応して下さっていることは、本当に頭が下がる思いです。一人の父として、子供の死ほど悲しいものはありません。ましてや、自ら命を絶つなどは絶対にあってはならないことです。いじめた子供の責任云々と言う前に、親として、大人として、人間として、こういう社会を作ってしまった責任を問うべきではないでしょうか。無責任と無関心がなくならない限り、この不幸は後を絶たないのではないかと思います。

学校生活の思い出は大人になってもいつまでも心に残っているものです。Mもすばらしい先生と出会えたことを心の宝として、一生心の思い出に残ることでしょう。いじめ社会のない日が一日も早く来ることを願ってやまない今日この頃です。

T. Mさんのお父さん

先生の教えにはいつも頭が下がる想いです。Mは、なかなか自分の意見を言わないので、もしいじめがあったとしても誰にも言えず自分で悩んでいる様な気がして心配です。

手紙には、2年生の時男の子からくつを隠されていた事が書かれてありました。もちろん私達も初めて知りました。友達が一緒に捜してくれたようでした。友達の大切さがわかった様です。

それから、お母さんのお腹の中から元気に産まれて来れて良かった事、お母さんの子で良かった事などが書かれてありました。普段口にするのはてれくさくて言えないけれど、手紙には素直に書けるのですね。私も主人も交代制の勤務をしています。Mが赤ちゃんの時からやっているの、年子だった上の子はおばあちゃんが、Mは私達と寝ていたのですが、遅番の時は夜の11:30過ぎないと帰ってこないでMは赤ちゃんの時から一人で寝て私達を待っていました。でも、Mは寂しいとは一言も言いませんでした。小さい時から我慢する事を知っていたんですね。最近はやっていないのですが、子供達に1冊のノートを渡して交換日記形式で遅番の時など書いておりました。それはこれからも続けるつもりです。

T. Mさんのお母さん

娘の作文の中から……わたしはいじめてもいじめられてもいません。だれかがいじめられたら3年5組のみんなやお父さん、お母さん、おじいさん、おばあさんが心配するし、小さなことから大きなもんだいになってしまうんだよね。いじめられている人もかわいそうだし、どうしてたいせつな友だちをいじめなければならないのかな。そんな友だちって、わたしはゆるせないです。と最初のびんせんにかいてありました。

子供も大人以上にすばらしいことを考えているんだなああと初めての手紙で知ることができました。また、最後の文面には、お母さん、わたしはすなおな人、やさしい人になりたいです。学校であったできごとを話をするのが大好きです。もしもわたしがいじめられたら、すぐお母さんにいいます。みまもって下さい。お手紙ありがとうございます。といった内容でした。思わず目頭があつくなりました。一通の手紙の中からこんなにすばらしい親から子供への感動をおぼえたことは初めてでした。最初は、手紙どうしよう、どうして?と思ったりもしたのですが、今になって本当にありがとうございますと先生にこの感想を通して書きます。

私ごとになりますが、先日先生からいただいたプリントと私と同じ子をもつ親にみせました。その親は、ならっている子供たちはしあわせだね。そこまで考えてくれる先生はどこにもいないよ。だから、いじめられていることも、いじていることも知らずにいる親や先生がいるんだよ。うちの先生はめんどうくさいこといやな先生だから絶対そんなことしないよ、と私にいった親がいました。

I. Nさんのお母さん

いじめのニュースがでると、まさか自分の子がそんなめにあっていないだろうか
と不安になったこともあります。

「Yの学級ではそんなことない？」

と聞いたこともありました。

はずかしくて、せっかく書いた手紙を、ベットに入る寸前に私に渡し、すぐか
くれるようにベットに入っていました。

「あとでむこうで見て！」

と言いました。よっぽど照れくさかったのだと思います。命を大切にしたいとい
うこと、学校に行きたくないほどいやな時には、家にいるようにすること。そして、赤
坊の時から自分を育ててくれたことにありがとうという言葉がそえてくれました。

命について考えてくださった先生に感謝します。 T. Yくんのお母さん

子供が3人いるので、1人1人にかまってあげる時間がなく、特にTは一番上とい
うことで「宿題したの？」「時間割は？」など、そういう話ばかりで心の問題などは
話したことがなかったので、今回の手紙はとても有意義なものだったと思います。先
生がいじめについて真剣に取り組んで下さり、**子供達に話しあい考える機会を与えて
下さったことは、とても感謝です。**いつもしまりがなくTに手紙など書けるのだら
うかと思いましたが、「自分がいじめられたら、やめてほしいとはっきり言う」と書い
てあり、「自分にはとてもいい友達がいって幸せです。お母さんもいい友達をみつけ
て下さい。」と書いてあるのを見た時、うれしくなりました。 O. Tくんのお母さん

まず初めに、とてもいいことだなあと思いました。

手紙の返事をもらえるとは思っていなかったのが、感動しました。ジーンときまし
た。こんなに素直に自分の気持ちを書いてくれたのは初めてで、うれしくなりました。
言葉では、なんだかんだと話をしますが、言葉を文字で表すと一つ一つが心に残
ります。子供もきっと同じだと思います。だから、いろいろなことを（反省しながら）
書いてくれたのだと思いました。

Kの書いてくれた手紙は、ずっと残して宝物にしておきます。

T. Kくんのお母さん

近頃ではいじめが原因で本当に死んでしまう小学生、中学生がいます。今、子供達
は3年生で本当のいじめを経験していないと思います。これから日に日に大人に近づ
いていく子供達です。たのしい事、うれしい事、くやしい事、つらい事、いろいろ体験
すると思います。もしかして、いじめも経験するかもしれません。その時は、あの母
からの手紙を思い出してほしいです。母達も父達も何才になっても、おばあちゃんに
なっても子供達の事が心配です。先生、いじめの授業は、これからはとても意味のある
大切な授業だと思います。この間の手紙で子供達は、いつもの母とちがう母親、父親
を感じたと思います。私達親もまたいつもとちがう子供を感じました。いいコミュニ

ケーションがとれたと思います。感謝しています先生。今後ともよろしくおねがいします。

S. Yさんのお母さん

いつもお世話になってます。手紙を読んで感動し、涙がでました。私が心配するまでもなく、Mはわかってくれたことで安心しました。この手紙は、一生私の宝物としてしまっておき、お嫁に行くときにでも渡して見せてあげたいと思っています。またこんな機会があってもいいかなあと考えています。今年もどうぞよろしくお願い致します。

H. Mさんのお母さん

自分の子供に手紙を書いて私達の思いを伝える事は、なかなかできない事です。

私は、良い経験が出来たと思っております。子供にとっても、学校の授業にはない大切なことを考えさせられて、これから先、何か不安になったりした時、自分を思ってくれている人達がいることが、とても励みになると思うのです。

すばらしい機会を与えてくれましたことにうれしく思っております。

S. Yくんのお母さん

子供にはじめて手紙を書いて、はじめて手紙をもらいました。めんどうだし、てれくさいし……。子供がどんな気持ちで読んでくれたのか。うれしそうな顔を見たら、「よかったなあ」と思いました。子供からの返事も、私にとってはうれしくて何よりの宝物になりました。これから何年後か、何十年後かに、子供といっしょに読み返してみたいと思います。

3年生の素直な心の今の時期に、こういう機会を与えて下さった先生に感謝します。

I. Sくんのお母さん

いじめ。この言葉は、けっしていいひびきではありません。

子供達は、私たちよりもしっかりうけとめているようでした。

自分の子供から「だいじに思ってくれて、ありがとう。」こんな言葉が出てくるとは思ってもみませんでした。とてもうれしかったです。人をたいせつに思う気持ち、自分にじしんと勇気をもつ事を、3年でこの事が少しずつわかってくれる事、実行にうつしてくれる事をねがいます。

子供達は、私達親が思っているほど、もう子供ではないんだなあと思いました。

この授業、子供達にとっても、親にとってもたいへん意味深いものだと思います。

これからもよろしく申し上げます。

O. Tさんのお母さん

実践を通して

いじめについて子どもたちに考えさせたい、というところから始めた実践である。

親子の手紙が中心となった実践ととらえられるかもしれない。

しかし、いじめの学習を通して、親子の絆を強め、そのことがいじめをなくすことにつながるという私なりの信念があった。

答えはすぐには表れない。

一方的に「いじめは悪いこと」と教えること、子どもたちにスローガンのように言わせることは意味がないと思う。

相手を大切にすることを教えるには、気づかせるには、まず自分の心の安定が必要である。

いじめに限らず、子どもたちは、自分に自信をもてたときに友達に優しくなれる。

自分に自信をもてず、相手をうらやましく思うときに、足を引っ張ったり、悪口を言ったりして、自分が伸びることをあきらめ、相手を蔑むことによって自分なりの安定を得ようとするのである。

今回の方法は、直接的にはいじめに対する取り組みとは言えないかもしれない。

しかし、子どもたちの中には、大きな自信と強い親子の絆がつくられたことと思う。

それが、子どもたちの成長に必ず役立つはずである。

親からの熱い思いが伝わった子たちにとって、大きな安心があれば、

子どもからの今の声を聞いた親たちにとって、成長を受け止める喜びがあれば、

いじめだけでなく、大きな障害を乗り越えて行けるはずだ。

子どもたちの感動。

父母の感動。

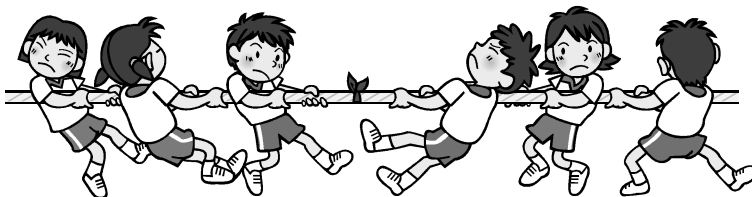
どちらの手紙とも、私は一切見ていない。

それは、残念なことであるが、親子の成長を支援する立場に徹する教師としての立場もいいと思った。

私が親として、自分の子供に手紙を書くときには、私は何と書くだらう。

そして、我が子はそれに対して何と言うであろうか。

その体験ができない自分は、今回の父母がうらやましい。



いじめの授業を終えて、子どもたちへの言葉

いじめは、してはいけないことだ。
あつてはいけないことだ。
でも、どこかで出合うかもしれない。
いじめられたとき、とても悲しくなることだろう。

きみは一人ではない。
お父さん・お母さんは、いじめられている自分を隠す存在ではない。
そこまで自分をつくらなくてもいい。
きみは一人ではない。
友達でもいい。先生でもいい。
だれでもいい。
困っているとき、自分の言葉で話してほしい。
もっとも身近にいるお父さん、お母さんは、
ずっと小さいときからきみたちを見守ってくれていた。
最後は、そこに逃げ込めばいいじゃないか。
口で言えなければ、手紙でもいい。
助けてと泣いてもいいじゃないか。
死ぬことは、多くの人々を悲しませる。
そんな最悪なことはない。
そんな悲しいことはない。

傷つけられてボロボロの心になったって、
きみを受け入れてくれる人はいる。
だから、生きてくれ。
生き続けてくれ。
ただ、きみがそこにいてくれるだけで、
それだけで幸せになれる親が、きみの後ろにいるのだから。

沼澤 清一

